

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873700488		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホームいっしん館玉造 (2ユニット共通)		
所在地	茨城県行方市甲476-1		
自己評価作成日	令和 5 年 4 月 1日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 7 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873700488-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和5年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の生活習慣を大切に、一人ひとりがその人らしい生活を送れる環境を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から車で1分程脇に入った市の中心地に位置し、近隣には市役所や保健センターなどの公共施設、ショッピングセンター、飲食店などがあり、利用者は利便性を感じながら活気ある暮らしができる環境となっている。管理者は一日一回は利用者と一緒に笑うことを職員に意識付けし、利用者との会話時の笑いは周りで聞いている利用者も大笑いとなることで利用者との信頼関係に繋がりがり利用者は楽しく和やかに日々を過ごしている。職員は利用者一人ひとりの誕生日に好物を提供し、手作りケーキで祝っているほか、スーパーの広告やテレビなど見て食べたい物がある時は多数決で決めて当日の献立の変更をするなど、食事が楽しいものになるように支援している。利用者一人ひとりに担当職員を決めており、毎月家族等へ送付するおたよりは写真付きで利用者の日常の様子を手書きしており、家族等が親族へ知らせる手段としても活用している。その文面は心温まる物を感じさせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の交流を大切にしグループホームという施設を地域の方々に理解して頂ける様な理念を掲げている。	法人理念をもとに施設独自の理念を作成している。利用者が毎日笑顔で生活できるよう心掛けるとともに生活の中で利用者を頼りにすることで、利用者のやる気と居場所の確保につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で現在は自粛しているがお祭りなどの地域行事に参加している。また地域の方とは運営推進会議を通して地域交流をしている。	今年の5月に地域のお祭りの山車やお獅子等が事業所に来て、獅子頭で利用者の頭を啜え無病を祈願してくれるほか、事業所が飲み物をふるまうなど地域との交流が再開された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し地域住人へ働きかける機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の様子、行事の報告参加の声掛けをしている。意見、要望を受けサービスの向上に努めている。	家族等の代表や市職員のほか民生委員や地区長を委員として、コロナ禍では書面開催としていたが対面開催が再開された。事例報告を行い、適切なケアについて話し合いがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	可能な限り直接市役所へ届けるようにしている。保護担当者とは密に連絡を取り、相談に応じて頂いている。	事業所から市役所までは近いので、日常的に訪問しながら相互に協力関係を築いている。生活保護利用者のところに、定期的に市担当者が訪問しているほか、場合によっては必要に応じて随時来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	問題行動をバリデーションを活用し、違う視点から見つめるようにしている。ケアカンファレンスを行い人生の先輩と認識し業務に携わっている。	職員にケアカンファレンス時に利用者の支援で検討したいことを事前に記載してもらい、ケアの見直しを定期的に行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。現在はオンラインによる法人独自の学習会が開催され、職員全員が参加し、身体拘束をしない工夫や考え方の周知を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアカンファレンスなどを行い業務に携わっている。申し送りなどを活用して細かく状態が分かるようにしている。身体拘束についてマニュアルがある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が制度を理解し必要性を認めたら早急に対応できる体制を整え支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約改定等の際はご家族様に十分納得を得たうえで同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情が発生した時はその都度納得して頂ける様に説明する。相談や苦情は随時受け付けている。要望があった際はケアプランに取り込んでいる。	利用者からは日々の会話の中で、家族等からは面会時に必ず声掛けを行い、意見や要望、困りごとはないかなどを聞くように努めている。「利用者からの苦情を処理するために講ずる措置の概要」を作成している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事採用に関しては本社に一任しているが利用者の受け入れ継続可否等はスタッフの意見を聞き入れながら取り組んでいる。他のいっしん施設への紹介も行っている。	職員の意見等の共有方法にグループラインを導入しているほか、管理者に個人的に話しがある時は会社の携帯電話で管理者に電話で相談などができるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	担当マネージャーがケアカンファレンスに参加し、色々な意見を吸い上げ、会社の方向性を職員に伝えると共に職員一人ひとりがやりがい、向上心を持てるように助言、アドバイスをを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を随時行っている。又現場において能力に応じた指導を行っている。社内研修を定期的にオンラインで行い職員全員が受講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネの定例会や市の研修会などに参加し情報の共有化を図り質の向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一対一で話せる場面作りをしている。入居前の面談にて希望を伺い、それに合ったサービスが出来る様に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ユニット出入口にご意見箱を設置し気軽に意見を出して頂ける様になっている。電話などで話したり面会時間を作り話す場面を設けている。契約時に家族様の意見を聞きケアプランを作成し説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの入居に合っているか見極め他のサービスが適していると感じたら家族様と相談し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として昔の習わしや料理、畑の作り方などを教えて頂いている。料理などを一緒に行い同じものを一緒に召し上がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂ける様に支援し何かあれば家族様に連絡・相談・報告をしている。月に一度は写真付きのお便りを出し電話などかけたい時はかけ、不在で心配してしまう時もあるので予めつながる時間を伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お便りや電話でお話をされる。時には馴染みの場所に外出や買い物に出掛ける。コロナ禍で中止となっていた。面会や外出も4月より実施。	入居前の聞き取りなどで把握した情報からフェイスシートを作成している。職員とは理美容院や墓参りなどに出かけ、家族等とは一緒に自宅に帰ったり食事に出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も上手に輪の中に入り自然とコミュニケーションが取れている。世話役の方には出来る限り役割を發揮して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所は、グループホーム、有料老人ホーム、高齢者住宅の三本柱になっている。事情により退居になってしまった後も相談を受け事業所内の施設の転居が可能。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人の話や傾聴しご本人様の希望を見出し把握していく。意見表示の少なく選択等の場作りが乏しが細かい事柄でも、まず利用者様に聞き選択の機会を作っている。	利用者との日々の会話や関わりで希望や意向を把握しているほか、表出困難な利用者とは、態度や表情から汲み取り、職員間で相談しながら把握するように努めている。利用者一人ひとりに担当職員を決めており、利用者を選択肢ができる様な聞き方で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全スタッフが利用者様の生活歴を把握し家族に昔の話を聞きそれを率先して行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・申し送りを活用している。一人ひとりの状態に合わせて過ごして頂いている。テレビが好きな方はテレビを見て頂いたり、散歩が希望の方は散歩に行ったりと個々に合わせて行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族様の意見を取り入れ、必要な時には専門職に相談し月1回のモニタリングとアセスメントをスタッフ全員で行い介護計画に反映させている。状態の変化があればその都度検討している。	6ヶ月に一度の見直しをし、月に一度の定期的なケアカンファレンスの他、必要に応じてケアカンファレンスを開き、事前に職員から利用者の計画の見直し検討意見を受けながらその人に合った計画にして職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜の様子を時間ごとにタブレットへ入力し必要な時には朝礼・夕礼時に申し送り行いケアカンファレンス時に話し合いをし介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所はグループホーム・有料老人ホーム・高齢者住宅の三本柱になっている。また医療行為が必要な時には連携している病院に相談し治療に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナの影響で自粛しているがボランティアの方々に来て頂いたり、地域の行事へ参加している。また、スーパーに買い物に出掛けたり、外食している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず、ご本人家族の希望を確認した上で医療機関に受診している。	契約時にかかりつけ医への継続受診が可能なことを説明している。隣接するデイサービスの看護師に相談をしながら健康管理を実施している。受診には職員が付き添い、医師と情報のやり取りをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回のペースで往診に来て頂いており、利用者様の健康管理をしている。また常に相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナの影響で現在はできていないが定期的に面会と担当医師、看護師から病状説明を受け早期退院に向け連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その人らしい生活を送って頂き、体調の変化に気づき医師に連絡をしている。状態変化に伴い医師・家族様・職員が話し合いを持ち、より良い対応が出来る様に取り組んでいる。	契約書の中で「医療連携体制、及び重度化・看取りに関する事項」で説明し、家族等から同意書を得ている。職員は年1回WEBでの研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置が出来る様にマニュアルや薬箱を揃えて応急手当は出来る様にしている。新人職員等の研修を行いカリキュラムの中に取り入れている。スタッフは積極的に救命救急講座を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年二回行い、緊急時に全スタッフが対応法を身に付けている。夜間を想定しての避難訓練も行っている。地域の協力体制は運営推進会議の際に呼びかけている。	年2回の避難訓練を実施しているが、夜間想定訓練を実施するまでには至っていない。事業所周辺は市役所や保健施設、商業施設に囲まれており、近隣に住民が少ないことから、非常時には地域の消防団が協力をしてくれる体制になっている。	避難訓練は、夜間想定を含む年2回以上の訓練を実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の声掛けをする場合等、ご本人様を傷つけないような声掛け、対応、声のトーンにも配慮している。	利用者を人生の先輩として位置付け、尊厳に配慮した言葉遣いに努めている。トイレ誘導の声掛けは小声で対応しているほか、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で信頼関係を築き個人の意見を尊重し決定をご本人様へ促している。。また決定することが難しい場合には助言をしご本人の意向に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・トイレ・入浴の時間を決めずにその人に合わせている。また季節の習わし等を取り入れて出来る限り希望に添うにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪染め・化粧などのおしゃれの支援をしている。また訪問理容店があり希望があればいつでも来て頂ける体制になっている。好みの服など一緒に買いに行き選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立を作成し利用者様の好みのメニューを取り入れ提供している。また出来る仕事の分担を決めお手伝いを可能な範囲でお願いする場合もある。	利用者の食べたい物を聴きながら、職員が献立を考え、食材を買い出し調理して提供している。利用者はできる範囲の仕事は分担を決めて行っている。スーパーの広告やテレビなど見て食べたい物がある時は、多数決で当日の献立の変更をするなど、食事が楽しくなるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の水分の目安は表にしている。食べる量が決まっている方は何を何グラムと表示し写真に出している。一日の食事量・水分量などをチェック表に記入しいつでも見られるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にその方に合った口腔ケア方法で行い状況に応じ介助し、清潔保持に努めている。また誤嚥性肺炎予防を心がけている。月に2回歯科往診がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しその方に合ったトイレ誘導が出来る様に支援している。	ADL自立の利用者がトイレの場所がわかるように床にトイレへの矢印をつけている。腰痛がひどく、トイレでの排泄ができなかった利用者が、職員2名対応でポータブルトイレでの排泄ができるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防になるように水分・食物繊維が豊富な食材を献立に取り入れられている。天気に応じて外やホールを歩く運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望を重視し、好きな時間に入浴できるようにしその方に合った温度設定を行い入浴剤を入れ快適に気分転換をして頂いている。	入浴が楽しめるように入浴剤を使用したり、菖蒲湯や柚子湯などの季節の湯を実施している。その人に合った温度の対応や好みのシャンプーとリンスを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温管理に注意したり寝具を干し清潔に安眠できる環境を提供している。また眠れない時には話を聞いたり飲み物を提供する事で心の安定を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬の内容を理解し指示通り服薬出来る様にしている。薬の変更があったり飲み合わせの悪いものなどは申し送りを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・掃除・畑など利用者様がそれぞれの役割を持ち張り合いのある生活を過ごしている。レクや季節行事など楽しみも多く行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブに行ったり地域の飲食店に外出に行くようにしている。お墓参りの要望があった場合には家族様に連絡し計画を立てて出掛けている。現在はコロナの影響で自粛している。	買い物や散歩など、日常的な外出を継続しながら、地域との交流や連携を保持するよう配慮している。玄関の外にテーブルと椅子を配置して日光浴や外気浴をしながらお茶を飲み、気分転換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は持たないが家族との相談の上預かる場合は本部管理とし出納時にはレシートを添付し明確にしている。一緒に買い物に行き支払い時にはお金を渡し支払いして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は利用したい時にしてもらい知人の方など面会に来られた際にはお礼状を書いて出している。家族様からも気軽に電話を頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・ホールなどの写真や季節の花を飾っている。玄関・トイレは常に清潔に心がけている。こまめに換気をし空気清浄機を置いている。	玄関や廊下、居間兼食堂には季節の花やレクリエーション時の写真が飾られている。温度や湿度管理がこまめに管理されたホールは快適な空間で、その一隅にはソファが設置され、利用者同士の語らいの場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き冬には炬燵、また車椅子の方が自走して入れるテーブル炬燵を置き、話の出来る場を持てる環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用具を持ち込んでもらいその人の居室作りをしている。また家具の配置にも気を配り安全で快適な居室作りをしている。	管理者は利用者や家族等に、使い慣れた家具や生活用具を持ち込んでもらうよう伝えている。居室入口には目印を貼り自分の部屋がわかりやすいようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており全体に手すりが付いている。滑りやすい階段、浴室には滑り止めをつけ清潔感を心がけ誤認錯覚、アクシデントの原因になる物は置かない。居室入り口には目印を貼りわかるようにしている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 いっしん館玉造

作成日 令和 5 年 7 月 1 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回以上の避難訓練は行っていたが夜間想定 の訓練が行われていなかった。	夜間想定を含む年に2回以上の避難 訓練の実施。	自主消火避難訓練、夜間想定避難訓練、隣接 するここいち玉造館との合同避難訓練、消防 署立ち合いの避難訓練をを4～6ヶ月の間に 計画を立て実施していく。	12ヶ月
2	4	地域運営推進会議の実施後のまとめ、報告書 の作成が出来ていなかった。	意見をまとめ報告書を作成し次回の 開催時に配布する。地域密着型の特 性を生かし地域に沿ったサービス提 供が出来る様にする。	意見交換では施設側から対応に対する改善点や質 問を投げかけ、皆様からの意見、情報を取り込み 支援につないでいくことで地域との連携を密にし 活動内容の理解を深めていく。	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。